

令和元年度 第1回伊勢市子ども・子育て会議 議事録

日 時 令和元年7月4日(木) 午後3時30分～午後5時30分

場 所 伊勢市役所本庁舎東館 5-3・5-4会議室

出席委員 深草、花田、田口、濱口、田垣、尾関、伊寿、秋山、森、中村、杉山、道清、北川、柴原、藤田、近、鳥堂

事務局 健康福祉部

- ・次長 大井戸、参事 鈴木
- ・こども課 課長 堀川、副参事 谷、保育係長 濱地、保育施設管理係長 須川、こども育成係長 福田、井坂
- ・健康課 課長 浦田、母子保健係長 北口
- ・こども発達支援室 室長 岩佐

教育委員会事務局

- ・教育総務課 副参事 前村、西野
- ・学校教育課 課長 西岡、指導主事 垣澤
- ・社会教育課 課長 山口、課長補佐 阿部

同席者 株式会社 ぎょうせい 臼井

議 題

- (1) 会長・副会長選任
- (2) 第2期伊勢市子ども・子育て支援事業計画 ニーズ調査結果報告
- (3) 第2期伊勢市子ども・子育て支援事業計画 量の見込みの推計について
- (4) 第2期伊勢市子ども・子育て支援事業計画 事業計画の構成について
- (5) 幼児教育・保育の無償化について

・事務局より開会挨拶、委員・事務局紹介、資料確認

【事務局より】

議題（１）について協議

→会長・副会長選任、会長・副会長挨拶

【事務局より】

議題（２）について説明（アンケート調査結果報告書）

（「●」は委員意見、「→」は事務局回答を表す）

- 「自ら課題を見つけ解決していく能力をつける授業の充実」が、前回49.1%→今回59.1%で10ポイントも増えたのは、学校教育の成果と思う。
- 意外なのは、70ページの11番が低いこと。高い学習能力を身につけることを保護者は学校に期待していると思っていたが、他の項目を選んでいる。この原因は、労働力不足と感ずることがあり、今年の夏休みの自由水泳がPTAの総会で中止となったが、熱中症の怖さの他に保護者がなかなか仕事を休めないのも要因であり、この資料から学校現場で起こっていることとつながっているのがわかる。
- 学童保育のところ、乳幼児ではかなり利用の希望が上がっているが、小学校ではそこまでではない。前回比を見ると倍以上増えているが、乳幼児と比べて少ないのは、ニーズがないから少ないのか、ニーズはあるが受け皿がないから少ないのか。また、高学年は入れないから自宅にいるということも聞いているが、実際には余裕はあるのか。  
→高学年になると授業も遅くなり、習いごと増え、放課後児童クラブの必要がなくなる家庭も多くなるため、必ずしも入れないからこの数字が低いとは考えていない。  
また、基本的には低学年を優先し、定員を超える場合は高学年からお断りをしているクラブもあるが、各クラブにおいて可能な限り定員に対して曜日利用など、その日の中で受け入れ可能な人数を受け入れし、できるだけ多くのお子さんを入れていただくような努力もしていただいている。
- 兄弟で行きたい場合、上の子が行けず家で留守番ということあるので、今後のことを考えると定員枠を増やすことも考えてほしい。
- 今の放課後を期待している子供たちがそのまま上に上がっていくため需要が増えるのではないかと心配している。
- 3、4年生以上の高学年の子どもたちの枠を広げるということは1つの課題である。

- 現場からの意見だが、この乳幼児の数値は、保護者の方が仕事を終わるまで安全に預かっていたかというような現在の環境の中で、この児童クラブで小学校に入ったら過ごしたいというような希望がこの数値にも表れている。また、小学校高学年になれば、授業も遅くなり、習いごととかも新しく始まるような環境にもなるので、児童クラブに行く時間がほとんどないので、需要の減少の一因ではないのかなとは思っている。また、小学校の規模と学童クラブの規模の比率が合っていないため、やむを得ず高学年になると受け入れを断らせてもらう学校区も実際あると聞いている。受け入れの箱を見つけるのが我々もすごく難しいため、広げたくても広げられない。これについては、市役所と連携をとりながら拡充していく必要はある。
- 一番大きな課題というのは、場所確保か。また、担当する方は、少ないということはないか。
- 場所の確保がなかなか一番難しい1つのハードルと思う。まずは箱を確保してから、そこから職員の確保になるが、女性の方は家庭のこともあるので、少し早い時間に帰りたいという要望もあるため職員の確保もなかなか難しい状況でもある。
- 学童保育の場所の確保はどのような課題があるのか。  
→クラブと相談をしながら探しているが実施に至るまでにはなっていない。
- これだけ女の人が働いていたら、保育所の延長線であり、第2の保育所と考えられるのに。なぜ伊勢市は公設にならないのか。職員も午前中から雇って、学校や保育所の先生ぐらいの待遇にするのはどうか。お母さんたちだけに苦勞させる。つないでいるという状況。これでは子供が少なくなっていくと考えている。
- 私も学童を使っていたが子どもが行きたくなくなりやめたが、別の学童の話を知ると、すごく充実していて、スペイン村に行ったり学童のお祭りをしたりしている。それならうちの息子もやめずに済んで、自分も安心して仕事ができるのかなと思う。伊勢市でもこんなに違うのかと衝撃だったので、そこが何とかなると安心できる親御さんや通っていて楽しい子どもが増えるのではないかな。
- 市も、各クラブの中身の調査が必要では。  
→民設民営のため、どのように行事等の運営をしているか把握できていないため、それらを聞く、場の提供というのを今年度やっていきたい。
- 女性も働いてもらわないと働き手が足りなくなっている中で、企業としても女性に安心して働いてもらうためには学童の充実はすごく大事であり、保育のニーズを見ていると今後は学童が必要になってくると思うので、せつかくこういう会議の機会があるの

で、会議所とか企業とも連携し、企業から援助とかもしてもらい形もいいのではないかと。もう一つ、「伊勢っ子」育て事業で、大学生が手伝いに来てくれている。小学校5、6年生の子たちが地域を愛せるようにということで、年に3回だったのが今は5回ぐらい、その子たちの世話を大学生がしている。これには観光協会や会議所のメンバーが市と連携して見守っているため、この小さなまちに結構学生数が多いので、うまく連携できたらと思う。

【事務局より】

議題（3）について説明（資料1-1～資料1-3）

→意見・質問なし

【事務局より】

議題（4）について説明（資料1-4、資料1-5）

- この構成で第1期と大きく変わっているところは。

→大まかな流れに変わりはありませんが、子供の貧困対策の追加、第4章、第5章に今回新たに国の方から示されてきた箇所を追加していく。

【事務局より】

議題（5）について説明（資料2）

- ファミリー・サポート・センターは、厚労省に反対ですと意見書を提出している。援助する人は素人であり、研修を受けてやっている普通の人たちです。その人たちを無償化の枠に入れていいのかと。現場の家のことも指導義務も厚労省が言っている。私たちがコーディネートはしますが、当人同士の準委任契約でやっている事業で隣近所の助け合いの延長線を会にしているであるのに、現状としてはそういうことをわかっていたきたい。
- 父母の負担の軽減、少子化対策での無償化は大変ありがたいと思うが、無償化ではあるが、完全無償化ではないため、バス代、給食費も含めた、完全無償化に向かって欲しい。他市町からいろいろ集めるために、人口のプラスになっていくために、伊勢独自の保育、乳幼児の教育・保育、小学校教育、中学校教育作っていかないといけない。

この各会の代表の人に来てもらっている子ども・子育て会議の中で、今までの積み重ねてきた課題、こういう課題があると提示して、皆さんどう思うかという話をしていかないと前へ進まない。国や県が言ってきたからそのままするのではなく、伊勢の子育ての特化したものを作っていかないと。これは実際できるできないは別として、こんなことも考えているというパッケージというのも必要ではないかと感じた。

→理想とする部分は一旦掲げつつも、実際、ここまではできる、もしくはここまでやるとするとこちらができないというところの取捨選択をしながら、バランス感覚を持って事業展開をし。各分野からの意見をいただいて、最大公約数を取れる方向を確認しながら進めていきたい。

- アンケート資料の88・89ページに、伊勢へ転入した感想で地域の人が優しいというのがあるが、私自身、伊勢に住んでいてうれしいなと思うので、ここ（この会議）に頼って欲しい。もっと本当に伊勢らしい何かを進めていきましょう。
- 私は出身が県外だが、子供が安心して産めた、通っている保育園もすばらしい。小学校も、子どもは楽しく通っている。伊勢は子育てしやすいと思うので、自信を持って欲しい。
- アンケート資料の86ページの子育て全般部分の、前回よりも随分上がっているが、「そう思う」をもっと上げていかないといけない。制度をきっちりして、伊勢に集まるということ大事。
- 今まで行政のいうとおりになっていたが、アンケートの意見に注目をして、活気のある、考えとか意見が出て、そこに行政の人の考えもいただいて、何か考えていけたらと思う。

#### 【その他】

議事録のホームページへの公開に関することの説明。